二〇二五年六月一四日

夏雲を睨みつけてる鬼瓦　ぽんこ

園丁はボランティア女子薔薇満開　なつき

庭涼し小流れに風生まれけり　澄子

奥宮へ仰ぐ険磴苔涼し　もとこ

豊かなる湧き水藻花揺れやまず　む　べ

一掬の湧水に汗ひきにけり　康　子

万緑を統べ巌頭の大師像　うつぎ

遠音聴く森の静寂や時鳥　わかば

山野草談義の尽きず樹下涼し　もとこ

車座にわらべ地蔵や苔涼し　ぽんこ

わさわさとウェーブなして若楓　澄　子

ロレンソも通ひしといふ青葉径　うつぎ

青楓もりあお蛙の毬抱く　うつぎ

あめんぼう青天井を弾きけり　康　子

宣教師通ひし余野の樹下涼し　こすもす

せせらぎを覗くなぞへの四葩かな　たか子

湧水の吹上げやまぬ樹下涼し　澄　子

若楓十重二十重なすテラス席　む　べ

木洩れ日を撥ねてたばしる渓涼し　あひる

苔の上をたたら走りす岩清水　康　子

秀吉のお手植えといふ樹下涼し　あひる

定例WEB句会みのる選

二〇二五年六月一四日